

曹洞宗海晏山宛陵寺  
第 1 3 号 / 平成 2 5 年 夏

# は す の は

## 【特集～観音像奉安】

平成 25 年 7 月 8 日 発行人 浦辺世紀 発行所 宛陵寺伝道部  
〒 859-4527 松浦市今福町仏坂免 958 URL ; <http://www.enryouji.net>  
電話 ; 0956-74-0139 FAX ; 0956-74-1170 e-mail ; cent21.pie@gmail.com  
環境 ; iMac2.16GHz MacOS10.6.8 Adobe InDesign CS4 Canon LBP5610

◎ご家族皆様でご覧下さい。



この度奉安した観音さま（両側二体）

### 龍水

◆本堂向拝口（玄関）改築の際に奉安を志しておりました「雲陽観音」と「水月観音」の両尊像がこのたび奉安の運びとなりました。待ちに待った、という思いです。◆中国の福建省、福州在住の「翁玉明<sup>オウ イミン</sup>」という佛師の手により彫られました。以前の中国製の仏像は、雑でだめだ、とよく言われました。しかし最近では、日本の佛師や業者が技術指導し品質管理を教え、かなりレベルアップしました。◆仏像は、多くの人々が拝めば拝むほどに、魂がやどり、拝んだ人々の日常をつつがなく見護ってくださいます。一見、命の無いように見える木彫りの仏像に、少しずつ命がみなぎってくるのです。（世）



「かんのん様」は正式には「観世音菩薩<sup>かんぜおんぼさつ</sup>」といわれます。その字が表現しているように、私たち「世間の音（声）や思いを観て感じ取り、常々私たちを支えてくださる菩薩様」であります。

私たちは両親の肉体的なご縁をいただいて、この世に生を受けました。しかし生まれ出るまでには、たくさんの願いや祈りを一心に頂いていたことでしょう。「無事に生まれますように・・・」「元気に生まれますように・・・」特にお母さんからは毎日毎日祈りを頂いたに違いありません。そしてその祈りは、それぞれの姿かたちとなつてようやくこの世に現れ出たのです。

言ってみれば私たちの存在は、たくさんの願いや祈りを現実には



うんじょうにつこうかん ぜ おん ぼ さつ うんようかんのん  
雲上日光観世音菩薩 (雲暘観音)

えた、「観世音菩薩」の姿そのものであると言えるでしょう。そうです、私もあなたも、みんな「かんのん様」どうしなんです。

そんな私たちは、生まれたとたん、自分の力で生きていかなければなりません。とは言っても、自分のしていることは、好き嫌いを言いながら食べることのみに。

食べたあとの事はまったく意識していません。お腹の中では、細かく消化してもらい、栄養とゴミに分けてもらい、栄養は血液にのせて体中に分配し、ゴミはトイレで排出。心臓は休まず動き続け、呼吸のあんばいも自動的。これら、自分で考えてやっ（へ）



ます。寿命が延びれば延びるほど、私たちは欲ボケになるようです。医学が私たちの寿命を延ばしてくれたから、私たちはなかなかあつさり死ねないのです。家族が不慮の死を迎えた時、残された者には、「もつとしてあげることがあつたのではないか……。なのに、どうにもしてあげられなかった……」

と、悔恨が残ります。昔だったら、私たちは、「ほとけさまの、寿命だったんだよ……」

と、納得することができたでしょうが、今ではそう思えなくなりました。現代の医学はそれだけ私たちを不幸にしたとも言えます。プラスの面も大きいですが、そういうマイナス面のあることを忘れ



は じょうげつこうかん ぜ おん ぼ さつ すいげつかんのん  
波上月光観世音菩薩 (水月観音)

(✓)てませんよね。誰かにしてもらっているのです。そこに「かんのん様」の支えがあるのです。私の願いは「明日も生きたい」ということです。その願いを感じ取って運んでくださっているのです。

ただし、必ず寿命がありますね。「いつ?」・・・それも「かんのん様」におまかせするしかありません。なんせ、自分でやっていないのですから。

ところで、現代医学は様々な技術を開発していきなりました。寿命は確実に延びました。でもそれで、私たちは幸せになったのでしょうか?

「はい!」と断言するには、少しためらいが有り

てはならないように思います。

観世音菩薩には、聖観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音の「六観音」と、白衣観音、魚籃観音、一葉観音、威徳観音、延命観音などの「三十三観音」があります。

このたび、奉安いたしましたのは、『雲上日光観世音菩薩（雲陽観音）』と『波上月光観世音菩薩（水月観音）』です。

日光菩薩は、明るい昼間を護り、一千もの光明を発することに よって広く天下を照らし、多くの苦しみの根源である、無明の闇を滅し尽すといわれています。

月光菩薩は、暗い夜間を護り、月の光のようなやさしい慈しみの心で煩惱を消すといわれています。

元来、御本尊の薬師如来には脇侍として、日光菩薩と月光菩薩が共に奉りされることが多く、薬師三尊とよばれます。ご本堂にお詣りの際には、どうか御本尊さまと同様に、両「かんのん様」も拝んでください。今はまだできたてのほとけさですが、皆さまの信仰によって、数年の後には、宛陵寺にとってかけがえのない「かんのん様」になられることと存じます。

実は、般若心経も、大悲心陀羅尼も、観音様のお経です。観世音菩薩普門品偈や延命十句観音経ももちろんです。さらに今福町だけでも、各地区ごとに観音堂がお祀りされています。四国八十八カ所、西国三十三番、琵琶湖、秩父など私たちの回りは「かんのん様」でいっぱいです。私たち自身が「かんのん様」として命を授かった、私たちは「かんのん様」に支えられ、励まされて生かされている、そう信じて拝んで行きたいと思います。（世）

## 宛陵寺 ホームページ

[enryouji.net](http://enryouji.net) 検索

又は

宛陵寺 検索

お参りの仕方、  
坐禅のしかた、お経、  
ご詠歌、旧宛陵寺、歴史、  
文化財、今月の行事予定、その他

是非のぞいて下さい。。

スマートフォンはこちら↓



### ◎子ども寺子屋

7月28日（日）

参加者募集中！（小1～小6・30名）

### ◎護持会役員奉仕作業

7月30日（火）午前8時

旧宛陵寺集合

### ◎清女会奉仕作業

7月30日（火）午前8時半

宛陵寺境内集合

### ◎四国団参 11月11日～14日

3泊4日

参加者募集中！（詳しい資料あります）